

みんなの白岡遺産

1号



木造阿弥陀如来坐像（篠津 青雲寺）

11月23日（祝・木）、令和5年4月に市指定文化財となった木造阿弥陀如来坐像の一般公開が行われました。

本像は、胸前で説法印（下品中生印）を結ぶ坐像です。寄木造で、指先などにわずかな欠失が認められるほか、部分的に後世の修理の手が加えられていますが、像の主要部は造立当初の姿をよく留めています。

像の各部の特徴から藤原時代後半の院政期頃の定朝様彫刻の特徴をよく表しています。さらに、像全体の造形や構造などから12世紀末葉頃の製作と判断されます。

整美端麗な作風から中央仏師系の人物による造仏と考えられ、白岡市はもとより県東部を代表する平安仏の事例として文化財的価値の高い発見となりました。

青雲寺住職によれば、本像は、元は篠津須賀神社付近に所在した「西光院」というお堂に安置されていたものが、青雲寺に近接して所在した阿弥陀堂に移され、廃寺に伴って移されたものではないかといえます。



白岡遺産の認定方法

からなる保存団体を組織し、どのような活動を行い、どのように保存・活用していくのか具体的な「事業計画」とともに申請します。

「市民会議」は、市民団体からの申請を受けて、その内容を審査し、「白岡遺産」として認定するほか、団体活動の支援、文化財の活用に関する提案、まちづくり団体等との連携・調整、情報発信その他のお手伝いを行います。

また、「白岡遺産」の守り手同士の連携や包括的な保存活用の取り組みなども「市民会議」の仕事です。

令和5年度事業のまとめ

◇7月29日(日) 設立総会

参加者 60名 於：生涯学習センター

- ・市民会議の設立について
- ・市民会議定款
- ・役員選任
- ・事業計画、予算の承認
- ・白岡遺産の承認

◇11月23日(祝・木)木造阿弥陀如来坐像一般公開
参加者 128名 於：青雲寺(篠津)

- ・解説
林 宏一氏(市文化財保護審議会委員・元埼玉県立博物館長)
板垣時夫氏(市文化財保護審議会会長)

◇1月26日(金)文化財防火デー参加・協力
参加者 15名 於：大徳寺(上野田)

- ・訓練内容 通報、初期消火、文化財搬出、放水
- ・指導 白岡市消防団第3分団



文化財防火デー放水訓練

◇3月31日(日) 白岡遺産保存活用市民会議広報紙『みんなの白岡遺産』1号発行 300部

・A4判4ページカラー印刷

◆◆参加者の声◆◆

木造阿弥陀如来坐像一般公開に参加して

青木 美代子さん



出身地の篠津に素晴らしい文化財が伝えられていたことに驚きました。同時に、今まで守ってこられた祖先たちに感謝しています。林先生、板垣先生のお話もよくわかりました。

阿弥陀様は、静かな佇まいの中にも凛としたオーラが漂っているように思いました。地域の宝として今後も守り続けたいですね。

文化財防火デーに参加して

田中 優起さん



風が強かったので、少し心配しましたが、かえって、緊張感のある訓練となりました。火事は決して起きてほしくありませんが、万が一起きてしまった時のために訓練しておくことは大切なことだと感じました。

放水訓練を見たのは初めてでしたので、迫力がありませんでした。消防団の皆さんにも感謝します。

地域文化財愛護活動の紹介

野牛文化財愛護会と「筑後様まつり」

現在の新白岡駅西口周辺にあたる野牛地区は、江戸時代中期の儒学者で6代将軍家宣、7代将軍家継に仕えた新井白石公の領地でした。白石公は、野牛を愛し、後背湿地に排水路を開削させ水田を開いたり、飢饉に備えた食料備蓄庫である「郷倉」を設けたりと、善政を敷いたと伝えられます。白石公の没後も野牛村は新井家の所領として引き継がれました。観福寺には、白石公の子孫新井成美が作った白石公の肖像画が伝えられているほか、地域にはいくつもの所縁の文化財が残されています。

白石公は「筑後守」でしたので野牛村では尊敬と親しみを込めて白石公のことを「筑後様」と呼びました。白石公の命日である5月19日には、業績をたたえる「筑後様まつり」が行われていましたが昭和10年代に途絶えていました。

平成29年、改めて白石公の遺徳を偲び顕彰する取組みが復活しました。子供たちにも地域の歴史とともに白石公の偉業を伝え、地域を盛り上げる活動を行っているのが、野牛文化財愛護会です。

地域の文化財を地域で守る取組みです。



復活した筑後様まつりの様子

真言宗智山派 大悲山與楽院 観福寺

住職 布施 浄明

本尊 十一面観自在菩薩

文化財 紙本着色新井白石画像 (市指定)

明和3年銘宝篋印塔 ほか

白岡市野牛 656 ☎0480(92)5686

未指定文化財紹介

市内には60件の指定文化財が保存されています。裏を返すと、将来にわたって確実に守り継がれる文化財が60件しかないということなのです。

未指定文化財を「白岡遺産」として残すために、どのような文化財があるのかシリーズで紹介します。今回は、「土偶」についてご紹介します。

縄文時代の人々が、まじないの道具として作った土の人形が土偶です。時代や地域ごとにくつものタイプに分かれますが、市内では、前田遺跡(実ヶ谷)や清左衛門遺跡(彦兵衛)などから優れた資料が出土しています。一つの土偶だけでなく異なる土偶や関連する出土遺物を

「群」として捉え、様々なストーリーを考えてみるのも楽しいでしょう。土偶の一部は生涯学習センターの歴史資料館で見学することができます。



ミミズク土偶 (前田遺跡)
長10.5 cm、幅9.5 cm

✿ 編集後記 ✿

この度、初めての広報紙「みんなの白岡遺産」を発行する運びとなりました。

広報部会では、わかりやすく興味の持てる紙面作りに努めました。しかし、限られた紙面の中で読者の皆様に伝えることの難しさを感じました。

私たちは法令により文化財に認定されないものでも白岡市にとって、また地域にとってかけがえのないものを見出し守り伝えていく気持ちで頑張っています。

市民会議の事業に参加していただける方を募集しています。

広報部会 大橋 忠夫、興野 明夫、大野 雄大、近藤 勝夫、進藤 美千代

真言宗智山派 瑠璃山醫王院 青雲寺

住職 仁科 照彦

本尊 不動明王

文化財 木造阿弥陀如来坐像 (市指定)

菱沼溪齋翁墓碣銘 ほか

白岡市篠津 672 ☎0480(92)2630